

合志市総合計画第3次基本構想第1期基本計画の策定 について

現行の総合計画が令和 5 年度で終了するにあたり、令和6年度からの新たな総合計画の策定作業を進めています。令和 4 年度は基礎調査や現状分析を行ない、令和5年度は、その基礎調査を踏まえて、基本構想・基本計画の原案を作成し、令和 5 年 12 月議会へ原案を上程し、決定する予定です。計画策定にあたり、総合政策審議会の皆様へ意見を伺いながら作成していくことになります。

1 進捗状況

○市民アンケートを実施 9月

計画づくりに反映させるため、まちへの愛着度や今後の定住意向などを調査

調査対象 18 歳以上の市民 3,000 人

抽出方法 無作為抽出

調査方法 郵送法

調査票記載の二次元コードから、インターネットによる回答も可能とした。

有効回収数 1,166 有効回収率 38.9%

アンケート結果の一部抜粋(資料 1)

※評価点の算出方法

4 段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点（重要度）を算出する。

$$\text{評価点} = \left(\begin{array}{l} \text{「5 重要度高い」の回答者数} \times 10 \text{ 点} \\ + \\ \text{「4 やや重要度高い」の回答者数} \times 5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「3 どちらともいえない」の回答者数} \times 0 \text{ 点} \\ + \\ \text{「2 やや重要度低い」の回答者数} \times -5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「1 重要度低い」の回答者数} \times -10 \text{ 点} \end{array} \right) \div \left(\begin{array}{l} \text{「5 重要度高い」、「4 やや重要} \\ \text{度高い」、「3 どちらともいえない」、} \\ \text{「2 やや重要度低い」、「1} \\ \text{重要度低い」の回答者数} \end{array} \right)$$

- ワークショップ、職員研修を開催 9月25日～26日（資料2）
計画づくりや方針検討のために、まちづくりの施策アイデアを聴取するためのワークショップ
中高生ワークショップ(19人) 一般ワークショップ 3回実施(69人) 職員(19人)

- 全課ヒアリングの実施 10月17日～21日
現行計画の課題や、行政評価制度の課題等の抽出・整理。

- 総合政策審議会
総合計画策定におけるワークショップの意見とりまとめについて。

- 基礎調査・現状分析
人口、自然・社会動態、産業・経済活動などを類似・近隣自治体等と比較し、現状分析。住環境整備や土地利用の影響を加味した人口推計調査。

2 総合計画策定のスケジュール(資料3)

まちづくりに係る様々な分野に 対する市民の意識について

合志市の各環境について、今後どの程度重視しているかを把握するため、28分野75項目について、1（重要度低い）～5（重要度高い）の5段階で評価してもらい、その結果を加重平均値〔後述参照〕による数量化で評価点（重要度：最高点10点、中間点0点、最低点-10点）を算出しました。

自治・行財政分野

(1) 地域づくり人材の育成	3.12
(2) 地域づくり活動機会の確保	2.26
(3) 計画的な施策・事業の推進	3.97
(4) 職員の人材育成と効果的な組織運営	3.71
(5) 広聴・広報機能の充実	2.65
(6) 情報化の推進	3.83
(7) 市民サービスの向上	5.25
(8) 会計の適正な処理	3.85
(9) 評価機能の確保	2.27
(10) 開かれた議会の推進	2.32
(11) 戦略的政策の推進	2.90
(12) 公有財産の管理運営	2.63
(13) 財政事務の適正な執行	4.62
(14) 自主財源の確保	4.39

健康・福祉分野

(15) 子育ての経済的負担の軽減	4.90
(16) 子育てと仕事の両立支援	5.04
(17) 地域における子育て支援	4.78
(18) 相談支援体制の充実	4.33
(19) 病気になる生活習慣の確立	4.45
(20) 病気の早期発見	5.20
(21) 地域医療体制の充実	5.93
(22) 保険医療制度の健全な運営	5.73
(23) 地域福祉の推進	4.48
(24) 生活保護世帯・生活困窮世帯への支援	2.68
(25) 高齢者の社会参加の促進	3.18
(26) 介護保険サービスの適切な提供	4.61
(27) 高齢者の介護予防の推進	4.33
(28) 高齢者の生活支援の充実	4.42
(29) 障がい者(児)への支援及び福祉サービスの充実	4.56
(30) 障がい者(児)への社会参加の促進	4.29

教育・文化・スポーツ分野

(31) 学力の向上	4.64
(32) 指導力の向上	5.26
(33) 徳育の推進	4.48
(34) 体育の推進	3.74
(35) 食育の推進	4.38
(36) 義務教育施設の整備	4.32
(37) 学習の啓発と参加機会の提供	3.26
(38) 生涯学習団体の育成	2.58
(39) 生涯学習施設(環境)の整備	2.95
(40) スポーツの啓発と参加機会の提供	2.03
(41) スポーツ団体の育成	1.38
(42) スポーツ施設(環境)の整備	2.53
(43) 人権尊重についての理解と相談体制の充実	2.89
(44) 人権教育啓発活動実践の推進	2.54
(45) 男女共同参画社会の実現	2.82
(46) 歴史・伝統・文化の保護と継承	2.29

防犯・防災・生活環境分野

(47) 危機管理対策	5.26
(48) 災害予防対策	5.90
(49) 災害応急対策	5.85
(50) 災害復旧対策	5.84
(51) 交通安全意識の高揚	5.17
(52) 交通事故防止対策の推進	5.48
(53) 防犯意識の高揚と地域防犯対策	5.23
(54) 防犯に関する環境整備	5.19
(55) 消費者保護の充実	4.27
(56) 環境衛生の充実	4.72
(57) 公営住宅の充実	1.68
(58) 公園など身近な住環境の整備とみどりの保全	4.08
(59) 地下水のかん養と河川、池沼の汚染防止	5.28
(60) 水の安定供給	6.47
(61) 排水の浄化	6.07
(62) ごみの発生抑制とリサイクルの推進	5.35
(63) 廃棄物の適正処理	5.45
(64) 地球温暖化防止対策の推進	5.04

都市基盤の分野

(65) 計画的な市街地の形成	4.57
(66) 計画的な道路の整備	5.42
(67) 道路環境の整備	5.28
(68) 公共交通の利便性の向上	5.26
(69) 生産基盤の確保と経営力の強化	3.58

雇用・産業分野

(70) 後継者の育成	3.76
(71) 関係機関との連携の強化	3.17
(72) 人材確保と生産・販売力の強化	3.33
(73) 異業種連携の促進	3.56
(74) 企業誘致の促進	4.18
(75) 雇用環境の充実支援と就業機会の確保	4.66

重要度評価が最も高い項目は、「(60) 水の安定供給」(6.47点)となっており、次いで第2位が「(61) 排水の浄化」(6.07点)、第3位が「(21) 地域医療体制の充実」(5.93点)、第4位が「(48) 災害予防対策」(5.90点)、第5位が「(49) 災害応急対策」(5.85点)と続き、以下、「(50) 災害復旧対策」(5.84点)、「(22) 保険医療制度の健全な運営」(5.73点)、「(52) 交通事故防止対策の推進」(5.48点)、「(63) 廃棄物の適正処理」(5.45点)、「(66) 計画的な道路の整備」(5.42点)などの順となっています。

マチュア・ソサエティを用いたワークショップ

市職員、住民、中学生が自らの手で自らのまちの施策を産み出す試み

令和4年9月25～26日、合志市において、まちづくりゲーム「マチュア・ソサエティ」（『成熟社会』の意味）を用いたワークショップが開催されました。

マチュア・ソサエティは、まちの人口減少を食い止めるため「A：住みよい都市基盤と自然」、「B：商工・観光・産業の振興」、「C：防災・健康・福祉」、「D：住民主導のまちづくり」の4分野について、施策の提案をしていくゲームです。参加者は、互いの提案する施策を真剣に評価し合い、高い評価を受けた人が高得点を獲得していきます。

ゲームには市職員、一般市民そして中高生までが参加し、和気あいあいとした中であって、真剣に施策提案が行われました。

以下では今回の会議で提案された施策の概要を、上記の4分野別に記載します（50音順）。

※1 4分野は、記入した参加者本人による定義を重視した。

※2 判読不可能なもの、断片的な記述に留まるものについては掲載していない。



A：「住みよい都市基盤と自然」分野の施策アイデア



この分野においては、特に交通網・公共交通関連の提案が目立ちました。環境関連に関する関心も高く、ゲーム方式を用いる等、様々な角度から環境の改善が提起されていました。

01●「空き家でカフェ等の施設を開発」事業

・空き家をカフェ等の施設として開発し、空家問題の解決を図る。

02●「新しい公園整備事業」事業

・たくさんある公園を見直し、整備し、それぞれコンセプトを持って選べる公園を作る。

03●「医療的ケア児」事業

・合志市で対応可能な保育園に1ヶ所、看護師の派遣を行う。

04●「エコ都市化計画」事業

・電気自動車を増やす。新しい住宅地ではオール電化、太陽光発電、電気自動車が普及するようにする。

05●「外国人向け表記の充実」事業

・外国企業の進出に備え、日本のルールを覚えてもらい、住みやすい合志を作る。

06●「学校へ行こう！」事業

・「自分には、帰る場所がある」をスローガンとし、学校の一室を使って地域の方々と交流できるスペースをつくり、放課後に集まれるようにする。教育委員会、PTA、学校教育課等がサポートする。

07●「学校教育と子育て世代との協力」事業

- ・ 保幼小中と子育て世代が連携し、新しい人にも優しいまちづくりを行う。

08●「緊急時医療支援」事業

- ・ 夜間や休日等、家族における不測の事態が発生した際に、市内にある病院と連携してスムーズに医療の支援が受けられる。

09●「下水道引込事業」事業

- ・ 合志市に移住する人へ無償で下水道を引込み、市に新しく住みやすい環境を作る。日本下水道事業団がサポートする。

10●「健康→医療費をおさえる」事業

- ・ 運動等の情報提供により、自立を促し、健康寿命を長くする。寝たきりの人を減らすことで医療費も減り、本人達も老後を楽しく過ごせる。

11●「健康福祉推進」事業

- ・ すべての市民が平等にスポーツや文化に触れあえる環境づくりを推進する。

12●「公園の再生・改築」事業

- ・ 子育て世帯の増加に合わせ、子どもの遊び場を作る。

13●「公共交通機関維持」事業

- ・ 自家用車での通勤には交通費0とし、公共交通を使った人のみ支給する。企業と協力して実施する。

14●「公共交通機関の再編」事業

- ・ 転入者及び住宅購入者の就学問題や、高齢者人口の増加を考慮し、公共交通機関の整備を行う。空港へのアクセス整備でまちの収益増を図る。

15●「公共施設の使いやすさ」事業

- ・ 利用料金を安くし、電子予約を可能にすることによって、気軽に集まれる場所を作り、また社会人の利用率向上を図る。

16●「交通インフラ整備」事業

- ・ 人口が増え、車の数も増えている。計画的な土地利用を促進させ、暮らしやすく安全なまちをつくる。国や県と連携する。

17●「交通・カーブミラーの設置」事業

- ・ 通学中の学生の安全を図るため、カーブミラーを通学路に設置する。交通課やPTAの協力を得る。

18●「交通基盤整備」事業

- ・ 登校中に危険が少ない道を作る。カーブミラーの設置で視界をよくする。

19●「交通手段の強化」事業

- ・ 小中学生や高齢者が利用しやすいよう、市内一円バスの定期便（無料）を作る。一日最低4便くらい実施する。鉄道会社に協力を依頼する。

20●「高齢者の多い地域の住宅施設の建設・再建設」事業

- ・ 高齢者向け住宅事業を、市が主体となって地元企業と協力して実施する。監査は市外に依頼する。

21●「国営施設活用」事業

- ・ 合志市には国営施設が多いので、これらを有効活用する。例えば、農業公園ではフェス、菊池恵楓園は公園、農業試験場は貸農地等として活用する。

22●「子ども食堂」事業

- ・ 校区ごとに子ども食堂を作る。自治会や町内会を巻き込んで行う。新たなコミュニティを作る。

23●「子どもと老人に優しい町」事業

- ・ 「事故が少ない、お散歩しやすい合志市」をスローガンとし、人口増加に対応した歩道、農道、信号、歩道橋の充実を図る。合志市、熊本県、ボランティアがサポートする。

24●「子どもの教育・医療の無料化」事業

- ・ 子ども達に満足のいく教育や医療を受けさせるため、それらの無料化を行う（成人になるまで）。

25●「子どもの教育の機会を増やすための塾の提供」事業

- ・ 合志市に塾を作る事で教育の機会が増える。勉強を楽しく思ってもらえる工夫をする。

26●「ゴミ回収ボランティア」事業

- ・ごみを回収するためのボランティア活動を実施する。

27●「ゴミ箱の設置」事業

- ・公園にゴミ箱を設置する。

28●「差別をなくす取組事業」事業

- ・差別をなくすために講演会や地域交流を行う。

29●「市街地整備」事業

- ・合志市には国や県の土地が多いが、道路沿いだけでも開発を行い、市外に行かなくてもいいようにする。

30●「市街地整備促進」事業

- ・市街化調整区域を外し、商業地を増やす。それにより安定した財政を確保する。

31●「自家用車乗り合いタクシー」事業

- ・高齢者や交通弱者が相互の助け合いでアクセスを改善する。AI、ICTを活用する。市内事業者、企業、高専にアプリやシステムを作ってもらおう。

32●「自転車通勤促進」事業

- ・カウンタ、GPS等を提供し、利用者把握、情報取得、データベース化（通勤路、距離、消費カロリー把握）を行い、健康寿命を延伸する

33●「市内移動支援」事業

- ・レンタサイクル、タクシー割引ができるようにし、誰でも市内移動が気軽にできるようにする。

34●「児童・生徒を主導とした学校生活作り」事業

- ・学校において、児童・生徒が企画、問題提起、グループワークを行う。

35●「自分の心身・健康状態について知る」事業

- ・自分の心身、健康状態を可視化するために毎月1回程度、測定会や勉強会を実施する。体験型イベントを実施する。

36●「社会に出てから必要なことを教える」事業

- ・医療、お金、税金等に関する知識を学校で教える。専門家を学校に呼ぶ。

37●「渋滞の解消」事業

- ・時差出勤の推進、主要道路、通学路の拡幅、テレワークの推進等を行う。

38●「生涯学習の充実」事業

- ・コロナによる体力低下を解決し、豊かな情緒を作るために生涯学習を充実させる。トランポリン等を行い、体力アップを図り、健幸都市合志を実現する。

49●「植物を植えてもっと自然を」事業

- ・道路や線路の建築で木が切られている。そこで木を植え、家でも花を育てることで自然が守られる。

40●「市立の高校を合志市へ」事業

- ・「子どもの夢、応援したろう」をスローガンとする。市内に高校がないのはなぜか。高校があると安心である。アニメ科等、将来の夢の実現の為の高校を設立。市や教育委員会がサポートする。

41●「スケボーやBMXができる場所を作る」事業

- ・スケボーやBMXはオリンピックの競技にもなり、メジャーなスポーツになったので、それらができる場を作る。

42●「全ての人々が平等になるまちづくり」事業

- ・学校や教育の場において、近年の問題について考える授業を、連携して行う。その広報活動を行う。

43●「スポーツゴミ拾い」事業

- ・チームに分かれて環境美化を面白く行う。計量を行い競い合い、授賞式を行う。

44●「専門的な高校・学科の設置」事業

- ・阿蘇の高校に漫画学科ができて全国から志願者が増えているのをヒントに、専門的な高校や学科を設置する。

45●「頼れる公民館」事業

- ・公民館を避難場所や拠点として活用する。AEDを整備する。

46●「男女共同参画」事業

- ・「あなたは誰かの子どもであり、誰かの親ともなりうる」をスローガンとし、男だから、女だからという壁をなくし、人として人に向き合うことを大切にできるようにする。

47●「道路拡張」事業

- ・交通渋滞解決をスローガンとし、道路の拡張を行う。市長に依頼する。

48●「道路の拡幅」事業

- ・道が狭いうえに渋滞が多いが歩道は狭いので歩行者が危ない。道路全体の幅を6メートル広げる。

59●「日本一のクリーン都市・安心都市」事業

- ・「時間通りの収集、取り残し無し、事故情報等の提供」をスローガンとし、GPS、ドラレコを駆使したゴミ収集、地域の見守り、防犯を実施する。

50●「パソコン・スマートフォン講習」事業

- ・基本操作等の講習を実施する。実例を含んだ内容を盛り込む。熊本高専の生徒や社協がサポートする。」

51●「パートナーシップ推進」事業

- ・企業でもパートナーに、婚姻している夫婦と同じ福利厚生サービスを提供する。許可証を発行し、市内でお得なサービスを受けられるようにする。こうした事によりどんな形のパートナーでも住みやすいまちづくりを行う。

52●「パートナーシップの導入」事業

- ・現在は男女の婚姻届けしか認められていないが、性別に関わりなくパートナーとして届出を受理する。世の中の偏見や差別が解消される第一歩とする。男女間でしか存在しなかった会社での福利厚生が受けられるようになり、本人達も生きやすくなる。

53●「貧困ゼロ」事業

- ・申請があれば保護を受けやすくする（現金受給）。また、職のあっ旋を行ったり、子どもの教育や看護を受けやすくする。

54●「弁天とアンビー間の道路拡張」事業

- ・同区間の道路を拡張し、朝の通勤時の混雑を解消する。土木課や地域の農家等の協力を得る。

55●「放課後のクラブ活動指導者育成」事業

- ・放課後にクラブ活動の指導を行う指導者を育成する。しっかり給与を出し、仕事になるようにする。上下関係も身に着く。

56●「モノレール構想」事業

- ・渋滞対策としてモノレールを提案する。モノレール自体にもソーラーパネルをつけて発電させる。

57●「森の中で健康と安らぎを感じよう」事業

- ・「おいしい空気を吸おう」をスローガンとし、居住区や商業地区のデザインを考えなおして美しい街並みを作る。行政が主導し、住民が協力する。

58●「リサイクルゴミのポイント化」事業

- ・各地にゴミのリサイクルステーションを設置して、利用に応じてポイントを与え、ポイントは現金以外のものと交換できるようにする。

59●「ICT教育推進事業」事業

- ・世界で活躍する子どもを増やす。

60●「IT教育促進」事業

- ・小学校、中学校、社会人、高齢者、全ての人をターゲットにIT、スマホ等の教室を、無料で開く（これにより格差をなくす）。講師として高専の学生を招く。

61●「Wi-FiフリーStudyシステム」事業

- ・中高生、大人がフリーで勉強できる。スペースと一人一台のパソコンがある。新刊だけの図書館もある。

B：「商工・観光・産業の振興」分野の施策アイデア



この分野においては、特に農業振興関連の提案が目立ち、地産地消というキーワードも頻出しました。

62●「空き地・空き家の利用」事業

・「若者が合志に残って！」をスローガンとし、空き地・空き家を利用してミュージシャンによる歌等、若い人が集まるようにする。そこに助成金を使って店舗を作る。商工会等がサポートする。

63●「空き家再生ファンド」事業

・地域の空き家を借り上げて住めるように再生して貸し出す。住民から少額を出資して、収益に応じて配当する。合志市商工会、金融機関が主体となる。

64●「空き家を利用した起業応援」事業

・「新規移住以外で空き家を活用する」をスローガンとし、空き家を住宅以外に再利用し、飲食やフードでの個人経営者を支援する。農業中心の田舎の方の地域の空き家を住宅以外で再利用する。オープンキッチン等で複数人の利用可能の施設。各地域の自治会がサポートする。

65●「アニメ・マンガ関連事業」事業

・アニメ・マンガは国内外で高い人気がある。移住増加等を見込む。

66●「歩いて健康ポイントを稼ごう！地域クーポンアプリ」事業

・歩く等の運動を行うことでポイントがたまり、それを合志市内の商工会でつかえる割引ポイントやクーポンに変えて使うことができるアプリの開発と運用を行う。

67●「飲食店設置」事業

・飲食店等の観光地が少ないため、それらを作る。

68●「大型イベントの開催」事業

・「日本で一番ファンキーな市」「悩みが一番ない市」をスローガンとして、様々なところから人を呼び込み、それによってさまざまな店が儲かる。

69●「大型イベントの開催」事業

・イベントの実施で電車の利用者数が増加し、また、特産品や加工品等講師をアピールできるものを販売できる。

70●「親子で楽しめる施設作り」事業

・山や森林に、体を動かせる施設を作る。親子で協力してゲームをクリアしていくようなルールを作る。

71●「学校給食に地元野菜を！」事業

・給食として地元の野菜を地域の子ども達に食べてもらう。

72●「企業マッチングアプリ」事業

・「自分に合った職場の発見」をスローガンとし、アプリを活用した企業と人材のマッチングを行う。合志市内の事業者が求める人材・資格の必要性等のデータを収集し、アプリで登録した人とマッチングできるようにする。企業側は動画で業務内容紹介をする等、わかりやすい情報を提供する。

73●「近隣地域のPR」事業

・熊本、天草等のPRを行い、ベッドタウンとしての合志の魅力をPRする。

74●「熊本で作られた野菜を安く売る」事業

・地元の人々の購入を促し、農家を助ける。

75●「元気市交流マルシェ」事業

・月に一度の元気市で野菜や食べ物だけでなく、手作り品、サービスを持ち寄って売り買いする。子育て等のヘルプ情報、役所の困りごと相談もここで行う。

76●「工業団地道路整備」事業

・道路を整備することで、工業団地・産業の振興を図る。市、商工会がサポートする。

77●「工業団地の整備」事業

・工業団地の整備を行う、市の収益増を図り、道路整備や福祉等に回す。雇用創出する。

78●「高校生主体の観光地開発」事業

- ・合志市の良いところを引き出せるよう、人気スポットを高校生が主体となって考える。

79●「合志居酒屋・スイーツ街道」事業

- ・合志の新しい観光名所として、昼はスイーツとパン、夜は居酒屋が集まっている場所を作る。昼夜問わず人が集まる場所を作る。市内の食品加工業者や農家がサポートする。

80●「合志産のお土産の開発・販売」事業

- ・「合志のお土産」というものがないので、開発を行い、販売する。あんもちだご汁を活用する。

81●「合志市ゴミ拾いゲーム」事業

- ・公園のごみを拾うために5人1組のチームを作り、ゴミを拾い、重さを競う。

82●「合志市・食フェス」事業

- ・「合志市の食を広める」をコンセプトとし、複数の飲食店が集まって食フェスを行う。

83●「合志市の将来の産業の担い手を増やす」事業

- ・合志市在住の子どもたちが地元に戻ってくるようにする。合志市、企業、小中高大の学校で連携する。

84●「合志市歴史探訪」事業

- ・「古きよきものと新しいものの融合」をスローガンとし、竹迫城跡、日吉神社、かんのんさん祭り等を資源として想定し、パンフレットの作成、清掃事業、ボランティア活動員、タブレットの活用、新しい施設作り（アクティビティ）を行う。地元自治会、ボランティアがサポートする。

85●「合志の農村を楽しもう！」事業

- ・「合志の農作物はうまい！」をスローガンとし、レンタサイクル（できればアシスト付）で農村をまわり、食材を集め、おいしい料理を作る。イベントを定期的に開催する。市、農業他生産者がサポートする。

86●「合志の名所でサウナ、出張ブース！」事業

- ・サウナブームに乗じ、移動式を利用し、合志の各所でサウナや特産品の販売会等を、SNSを通じてアピールし、観光客の増加を図る。サウナカー等はクラウドファンディングや市からの助成、貸出もできるようにする。

87●「子ども達が楽しめるまち」事業

- ・子どもから大人まで楽しめる場を作るため、企業に呼び掛けて、大きな遊園地や公園を設置する。市内のみではなく、市外の企業に呼び掛ける。

88●「子どもも考えられる環境づくり」事業

- ・商工・産業開発は大人がやるものだと思われるが、小中学生が会社の事業を考案する。

89●「市外からの投資促進」事業

- ・大規模イベントを開催できる施設を作る。人口増加、住みよさ、交通アクセスの良さをアピールして、企業誘致を図り、雇用を生む。定期的（毎年）にイベントを開催する。

90●「市内参入企業誘致支援」事業

- ・未来の人口増加を目指し、商業地の開発を行い、参入企業への補助を行う。

91●「市内の食材PR」事業

- ・合志市内の様々なお店に、合志市産の食材を紹介するコーナーを作る。

92●「地元の食材を使ってコンテスト」事業

- ・地元の食材を使った食のコンテストを行い、1位の人には期間限定でお店を出させる。

93●「自由に職場を選べる」事業

- ・成果が数字・物で見えるもの、楽しく思えるものとする。自分の好きな仕事をみんなでできるようにし、課や部署を選択制にする。

94●「渋滞のない市」事業

- ・中心街、光の森等場所を限らず、また深夜0時まで時間を限らず、バスを運行させる。

95●「出張販売」事業

- ・商店や農業関係者が、家の近くにまで売りに来てくれる。

96●「商工会と連携した食の開発新規事業応援」事業

- ・支援金による援助、市民投票で人気トップ3の選出等を行う。起業支援を行う、商品開発と販売を行う。地

域外へのアピールやネット販売により、まちの収益の増加を図る。

97●「障がい者の交流の場づくり」事業

- ・「悩みが1番少ない市へ！」をスローガンとし、障がい者当事者として同じ悩みを持っている人と交流するための事業を実施する。

98●「職場の体験学習で農業体験」事業

- ・職場で農業体験を実施する。新人研修等に用いてもよい。食の開発と商品化への第一歩とする。

99●「女性・障がい者活躍支援」事業

- ・雇用の場の創出、雇用促進を図り、世帯所得を向上させる。企業や商工会がサポートする。

100●「神社等の合志市の歴史」事業

- ・観光地の増加による環境悪化も懸念されるので、今あるものを使う。神社の祭りを増やし、歴史の博物館等を作る。

101●「少しでも不便な商業施設作り」事業

- ・あえてバリアを作り、助け合いが行われ、コミュニケーションが図られるようにする。全国初の試みであり、観光地になる。

102●「セカンドライフで農業をやろう」事業

- ・農業の市であることを生かし、農業の面白さを伝える。社協がサポートする。

103●「体験パーク・コウシの森」事業

- ・「コウシにイコウシ！」をスローガンとし、弁天山、群山等に子どもも大人も遊べる屋外パークを作る。市外からの観光客、市内の子どもや大人が遊べるようにする。

104●「食べ物は自分で作ろう」事業

- ・「畑仕事で健康と食を満足させよう」をスローガンとし、使われていない土地を利用して畑を作る。農家、農政課、農業委員会がサポートする。

105●「団体間交流」事業

- ・各団体との交流を深めてお互い上がるようにする。

106●「地域で作られた食材を知る」事業

- ・給食時に、今日の給食で使われた合志市の食材を作った人々へのPR動画を流す。

107●「地産地消」事業

- ・合志市内の飲食業者に合志市産の農畜産物を消費してもらう。

108●「地産地消・お料理コンテスト」事業

- ・合志市で採れた野菜を使ったお料理コンテストを実施する。

109●「地産地消・観光地PR」事業

- ・合志市の特産物を使ったマルシェを開催する。観光地巡りやウォーキング大会が同時にできればなおよい。電車の貸し切りツアーも実施する。

110●「動画投稿サイトを利用したPR促進」事業

- ・動画投稿サイトを利用して合志市の良いところ（商業施設、マンガミュージアム）を発信していく。市のクリエイター塾と連携して、まちのPRと技術者の育成の両方を促進して活性化を目指す。

111●「都市間縦貫道路整備」事業

- ・熊本、福岡、合志、菊陽、大津をつなぐ道路を整備する。道路があることで市外からの収入が増える。

112●「トレイン商店街」事業

- ・買い物をする場所を電車であつなぐ。買い物するともらえるチケットが電車で使える。

113●「長年続くような祭りを作る」事業

- ・毎年恒例と言われるような祭りを作り、観光資源とする。住民同士で協力して店を作れるように支援する。

114●「なつかしの給食メニュー」事業

- ・小さい頃の思い出メニューを体験し、実際に子ども達が食べている給食を知る。

115●「ネットを利用した食や観光開発・促進」事業

- ・住み続けられるまちづくりを行うために、ネットを活用し、食や観光開発・促進を行う。

116●「農家の仕事をお手伝い」事業

- ・小学生、中学生、高校生が農家の仕事を体験する。農家の大変さと食の大切さを学ぶ。学生や農家がサポートする。

117●「農業者への生産体験」事業

- ・商工会等より、加工品等の開発を案内し、合志市の特産品の開発につなげる。

118●「農家体験ツアー&加工品体験」事業

- ・仕事の興味を子どもの時から育み、地産地消の促進につなげ、また転入者には土地の魅力のアピールとなる。

119●「畑を守れ。ゲームで農業事業」事業

- ・「畑を守り、農業の継続化を図る」畑を貸し出し農園化し、遠隔で東京の人に畑をレンタルし、指示の下、障がい者が動く。できた野菜を届けて食べてもらう。アプリも開発する。

120●「ハロウィンスイカ販促」事業

- ・合志市ならではの特産品を生かし、ハロウィンスイカのフェスを実施し、ジャックオーランタンを掘る等のイベントを実施す。農家やPTAの協力を得る。

121●「ハロウィンスイカPR事業」事業

- ・ふるさと納税返礼品、地元スーパー、物産館、マルシェ、テレビ等でPRする。スイカのまちを目指す。マーケティング業者、農家、スーパーに依頼する。

122●「非課税世帯の若年層への配食」事業

- ・健康的な生活を送りやすくするために、非課税世帯の若年層に配食サービスを実施する。

123●「物産館等で地産地消」事業

- ・地元の農作物を販売・購入できる場を作る。

124●「冬のイルミフェスティバル」事業

- ・公園全体をイルミネーションで飾る。毎年実施し、飲食店の振興を図る。

125●「フリーマーケット」事業

- ・使わなくなった物を他の人に使ってもらうことで、物の大切さを子どもたちに教えることができる。ゴミの減少にもつながる。定期的に開催する。

126●「文化と食の祭典」事業

- ・合志産、合志発の文化・食の祭典をフェス形式で開催する。

127●「まちのキャラクター」事業

- ・まちのキャラクターを産み出し、活性化を図り、日本で一番有名なまちづくり。

128●「マンガ・飲食店『マンガ飯』企画」事業

- ・マンガに出てきたご飯をアイデアに、合志の飲食店とコラボする。特産品を使うのが好ましい。地域外に届け、観光誘致も図る。

129●「マンガミュージアムからの就業促進等」事業

- ・全国のマンガ好きがマンガミュージアムで働くことによって雇用促進につなげる。マンガミュージアムの出張授業で、マンガ家の講師を呼んで実際にマンガを描いてみる。漫画家の育成に繋げ、コンテンツツーリズムの構築を目指す。

130●「道の駅設置事業」事業

- ・道の駅を設置し、地産地消を図り、地域外からの収益を得て、さらに防災施設として活用する。

131●「野菜の訪問移動販売」事業

- ・「地産地消のまちづくり」をコンセプトとし、合志市で作った農作物を移動販売する。移動が大変な高齢者でも買える。地元の小中高生、商工会、婦人会等がサポートする。

132●「遊休農地で野菜作り」事業

- ・合志市で空いている農地・山等を市民で野菜等を作る。うまく農地を利用する。

133●「歴史遺構から観光を活性 カタルパ project」事業

- ・古墳群、西南戦争等の歴史遺構を活用し、地元愛を強めつつ、歴史好きに刺さる観光活性化事業を実施する。合志市のクリエイターとのコラボレーションも行う。

134●「リモート農業」事業

・農地活用、雇用促進、地域外からの収益を図る。

135●「レシピ・献立・カレンダー」事業

・レシピをセット化し、働く女性を助け、子供たちの調理実習を行う。男性の家事参加を促進する。

136●「SNSで『映える』スポットの開発」事業

・「合志市の良さを生かしてにぎやかなまちを作る」をスローガンとし、若者を集めるために映えるものを提供し、おしゃれなカフェを建設する。地域の高校生がサポートする。

C：「防災・健康・福祉」分野の施策アイデア



この分野においては、特に子育て関連の提案が目立ちました。施設、人材、金銭的支援等、様々な角度からの支援が求められているようです。その他、交通弱者のための買い物支援や、災害対策に関する意見もみられました。

137●「青空ヨガ教室」事業

・「若い人から高齢者まで」をコンセプトとし、農業公園等で朝の時間帯にヨガ教室をする。健康習慣作りにもなる。イベント時等を狙って開催し、参加者の増加を狙う。

138●「いきいき・健康なまちへ」事業

・高齢者の孤立対策、公民館でフレイルチェックを実施、ワークショップの開催といった高齢化対策を行う。

139●「飲食店の増加」事業

・友達と遊ぶときに行く場所が少ないため、飲食店を作る。

140●「家庭の食料を棚卸で子ども食堂を支援しよう」事業

・家庭に備蓄してある「食べない物」を棚卸して「子ども食堂」に提供する。特別な財源に依存せず、相互扶助が実現できる。

141●「教師志望大学生への支援」事業

・質の高い教育が、質の高い教師を育成する。金銭的な問題で進学をあきらめる人材を支援。

142●「暗い道を安全に」事業

・街灯を増やし、小中学生に防犯たすき着用の徹底化を進める。店と連携し、部活終了後に30分間店の周りの光をつけてもらう。

143●「健康促進」事業

・すべての住民が気軽に取り組める運動促進を行う。スマホ等を利用して、一人でも多くの人数でも運動を行い、活動に応じて市内で使えるポイントを付与する。

144●「高齢者支援に小中学生が参加」事業

・高齢者支援に小中学生と一緒に参加する事によって高齢者が笑顔になる。

145●「交通安全対策」事業

・「交通安全・事故を0に」をコンセプトに、道路基盤整備事業を行い、災害時に安全な道を作る。これにより通学の安心安全を図る。

146●「交通手段の充実化」事業

・「笑顔で外へ出かけられる」をスローガンとし、レターバスを増便し、買い物や病院に通いやすくする。また、乗り合いタクシーを、防災にも使えるように登録する。ボランティア、近所の人達、家族がサポートする。

147●「高齢者健康寿命大作戦」事業

・「人生100年時代を楽しく生きる」をコンセプトとし、eスポーツを取り入れる。新しいコミュニティができ、世代間での交流もできる。

148●「高齢者買い物支援事業」事業

・移動式のスーパーを運営し、定期的（2時間おきくらい）に色々なルートをまわる。送迎支援（スーパーまで一緒に行く）も行う。」

149●「高齢者の買い物難民救済」事業

- ・農協による買い物代行があるが、利用者が少ない。市に、農協と連携した移動販売車の運営を検討してもらう。

150●「高齢者支援移動販売」事業

- ・地域の小さいお店がなくなると車を持たない高齢さやは不便になるので、行政が主導し、移動販売車を購入し、過疎地域を走行し、買い物難民を救済する。

151●「子育て応援」事業

- ・共働きの負担を減らすために幼児の送り迎えをタクシーで行う。

152●「子育て教育支援」事業

- ・子どもの習い事の月謝等に対し、市が金銭的な支援を行う。小さいことから色々な体験を積ませることで、個性的で豊かな思想が生まれる。固定観念のない社会の形成に役に立つ。

153●「子育て診断士の導入」事業

- ・市が主導して子育て世代向けのセミナーを行う。

154●「子育て世帯から高齢者世帯まで安心して暮らせる」事業

- ・子育て世帯と高齢者世帯の交流を促進し、日常や災害時、相互扶助、助け合いの輪を広げる。市、社協、保育園、NPO 法人がサポートする。

155●「子育てを楽しめる」事業

- ・魅力的な幼稚園から大学を作る。

156●「子どもと高齢者教室」事業

- ・子どもと高齢者が同じ場所に集まり、互いに得意とする内容を教え合う。

157●「子どもの安全」事業

- ・子どもを守るために通学ルートの安全課や学童保育等の充実を図る。

158●「子どもをいつでも預かる」事業

- ・子どもが病気でも、親の仕事が不規則でも預けやすい保育施設を作る。

159●「災害グッズ支援」事業

- ・「誰もが自分の身を自分で守れるように」をスローガンとし、グッズを詰めたものをリュックにまとめて支援を行う。

160●「災害時の備え 100%」事業

- ・災害時の備え（食料品等）を事前に呼びかけ、管理しておく。

161●「災害対策を考えるワークショップ」事業

- ・近年、台風大雨等の気象の懸念が増大しており、またこうした中であって住宅も増えてきている。今まで起こらなかった冠水被害や土砂崩れも起きるかもしれない。市と地域が一緒になってこれからどのような対策をすべきか考える。

162●「災害に備えた備蓄用品教室」事業

- ・非常持ち出し袋に何を用意しておくとか等、必要なことを学んで日ごろからの備えを確認し、また、避難先を確認する。防災士がサポートする。

163●「災害発生時の対策を具体化させようプロジェクト」事業

- ・外国人、高齢者、小さい子供がいる家庭の災害対策を具体化できるようにする。

164●「障がい者支援」事業

- ・障がい者への医療費支援の拡大を行う。領収書の提出を不要にし、現物支給にする。

165●「障がい者との共生」事業

- ・ハンディキャップの有無に関わらず、一緒に地域で暮らせることを目指す。保育園、小学校、中学校での支援を充実。

166●「障がい者との交流」事業

- ・「垣根をなくす」をコンセプトとし、イベントを通じて交流を行う。小学生以下からでも参加可能とする。

167●「障がい者と農家のマッチングによる就労支援」事業

- ・働き手を探している農家と簡易な作業を得意とする障がい者をマッチングすることで両者のニーズを満たす

福祉施策を推進する。

168●「障がい児を持つ親の交流」事業

- ・色々な年齢の障害児の親と話すことで、どのように子育てするか、どういう学校に行かせるか等の参考とする。療育により少しでもその子の将来が明るくなることで、施設利用だけでなく、就労につながる可能性も探る。

169●「須屋浄化センター跡地活用」事業

- ・同跡地を防災・キャンプ・バーベキューコーナー化する。防災拠点と遊び場、交流の場の構築。

170●「誰もが安心して働きやすい社会」事業

- ・育休、産休を取りやすく、またフレックスを拡充する。市、企業、保育園、学校が連携して行う。

171●「近くの公園で皆で遊ぼう」事業

- ・月に1、2回市内の公園で小さな子どもとその親で交流会を行う。ママ友ができる。

172●「町内会・電子回覧板の促進」事業

- ・民間の会社に委託・契約し、町内会の電子回覧板を作成する。料金は自治会費（町内会費）で賄う。もしくは市から補助金を出す。

173●「双子家庭支援」事業

- ・双子が生まれた世帯に1人分の支援金を助成し、生活が苦しくならないように支援する。

174●「保育園・学校・高齢者（障がい者）サービス合同」事業

- ・上記事業を合同で行い、交流を図る。子どもは昔の知恵を知ることができ、障害が個性だという気付きも得られる。

175●「保育士育成支援」事業

- ・保育士が不足しているため、研修や市における募集の実施を行い、より多くの子どもに保育・教育を与える。

176●「放課後等デイサービス・マンガ教室サポート」事業

- ・先生の代わりにマンガの先生が実施する。マンガを通して、子どもたちに新しい道を提示する。

177●「防災意識を高めよう」事業

- ・各地で防災に関する講話等を行い、実際に備える。

178●「防災士の活用」事業

- ・防災士を育成し、自分たちの身を自分達で守れるようにする。

179●「防災の重視」事業

- ・防災意識を高める。子供でも参加できるようなクイズのようなイベントを実施する

180●「防犯・健幸都市事業」事業

- ・ウォーキングしながら子ども達の安全を守ることをコンセプトとする。公園にあるチェックポイントを通学路に設置し、定められたいくつかのルートウォーキングし、ポイントを集める。ポイントで市内で買い物ができるようにする等。これらにより子育て世代の地域参入を図る。学校、PTAの協力を得る。

181●「みんなでおでかけ応援」事業

- ・「車がない（運転しない）人も移動できる」をコンセプトとし、運転ができる人が行きたいときに行きたい場所へ移動できる（乗り合いタクシーも活用）。料金は安価にする、あるいは割引券を発行する。

182●「みんなで子育て・地域で子育て」事業

- ・「地域で見守る子育て世代」をスローガンとし、ファミリーサポートセンターの強化、おもちゃの交換会、ガレッジセール week を実施する。

183●「私の自慢の朝ごはん」事業

- ・「朝食をきちんと食べるのは健康の基本！」をコンセプトとし、市民から朝ごはんの写真、内容を募る。時短やちょっとした工夫も教えてもらう。少しでも朝食への意識づけを行う。

184●「100歳健康支援」事業

- ・「目指そう100歳健康」をスローガンとし、ウォーキングやまちの運動会でポイントがもらえ、商品を獲得できる。

D：「住民主導のまちづくり」分野の施策アイディア



ここの分野においては、特に**コミュニティ作り関連**の提案が目立ちました。特に、若者、移住者、外国人がコミュニティに参加できることを目指す提案がみられました

185●「赤ちゃんからお年寄りまで広場」事業

- ・悩み相談、コミュニケーション、情報収集の場を作る。「一人一人がいきいきと」「一人じゃない！」。

186●「新しいコミュニティ作り」事業

- ・自治会、町内会の枠を超えたコミュニティを作る。

187●「新しいスポーツの導入」事業

- ・新しいスポーツ（スケボー、ダンス、パラスポーツ）の導入により、時代にあったコミュニティを確立する。合志市の魅力の1つとする。空き地、橋の下、学校等を使う。

188●「大人キッズニア倶楽部」事業

- ・小学校の子ども達の職業体験の大人版を実施する。1日のイベントで複数の仕事を体験する。

189●「おとなりさんをもっと知ろう」事業

- ・近所の人を知ること、情報を収集でき、防災時の協力体制の構築が図られる。

190●「外国の方との交流」事業

- ・お互いの国の言語を教えあう。理解が深まる。

191●「学校に行くことが苦手（嫌）な人のための勉強会実施」事業

- ・小中学生、高校生で学校に行くのが苦手な人のための勉強できる場を作る。

192●「各地区に自由に使える拠点作り」事業

- ・「集まって楽しもう」をスローガンとし、歩いていける場所に交流や活動ができる場所を作る。空き家を利用することで空き家対策になる。行政の空き家対策関連部署、教育関係者、スポーツ指導者、料理する人がサポートする。

193●「金儲けの仕組み講座」事業

- ・幼いうちから金について触れ、大人になった時に金に困らないようにする。

194●「気軽に入れる図書館兼自室スペース」事業

- ・自習できるスペースが少ないので、無料でできるようにする。図書館に行く勇気がない人もいるので外観や内装を変え、誰でも行けるようにする。

195●「金融リテラシーを学ぼう」事業

- ・定期的に金融に関する勉強会を開催する。

196●「近隣施設交流会」事業

- ・保育園、学校、老人ホーム等で交流できる場を作る。子どもと高齢者の交流が図られる。

197●「結婚応援キャンペーン」事業

- ・未婚男女が集まる交流の場所をつくり、イベントを計画する。結婚目的だけでなく、人脈作りとしても活用できる。居酒屋やイベントスペースを使って収益化する。

198●「建設業土木業活性化地域づくり」事業

- ・建設インフラを自分たちの手で供給する。そのために建設業界の手による勉強会等を行い、担い手の育成を推進する。

199●「合志市アピール動画大会事業」事業

- ・合志市をPRする動画を募集し、最も優れたものを決める。合志市クリエイター塾の人がサポートする。

200●「合志市体育祭」事業

- ・市が体育祭を実施し、市民や地区のコミュニケーションを図る。

201●「交流活動」事業

- ・「これを習いたい人」「これを教えられる人」のマッチングをして教室を開く。場所は市民センター等、家の近くで。

202●「交流の場」事業

- ・歩いていける場所に、年齢の垣根を越えた交流の場を作る。そこでは食事を作ったり、おやつが提供されたりする。女性部の人やボランティアがサポートする。

203●「高齢者デジタル教室」事業

- ・「合志市の情報発信を全市民に届けやすくする」をコンセプトとし、スマホの使い方やホームページの見方等を教える教室を設ける。高専生や近所のスマホショップに効力がサポートする。

204●「国際交流事業」事業

- ・「MIX 文化で新しい合志の魅力」をコンセプトとし、海外企業の誘致により海外から人が増加する機会に合わせ、合志を知ってもらい、教育の場でお互いのことを知り、海外の方向けの飲食店を作り、ワークショップ等で市外からの興味を引く。

205●「子どもが思いっきり遊ぶことのできる場（公園）をもっと身近に」事業

- ・公園で遊ぶ子どもが少なく、ボールも使えない。遊べる場所が、地区ごとに1つは作る。

206●「子ども情報支援制度」事業

- ・ICTに詳しい子供を育成する。プログラミングやネットリテラシー、情報セキュリティ等の情報支援を行う。2025年への壁への対策として、ITに詳しくなることで、引き続きの活性化を目指す。市のIT有識者に依頼する。

207●「子どもたちの未来のための株の勉強会」事業

- ・年金が減少する中で、老後の資金作りのために親子で株式投資の勉強会を開催する。子どもが理解できる用意マンガやゲームを使って学習する。

208●「在住外国人との共生」事業

- ・県内及び市内の在住外国人増加や円安・人材不足を背景とし、外国語教室（アジア言語）、市内インバウンド、国際感覚の醸成を図る。

209●「自治会ごとの自主財源獲得大作戦」事業

- ・自治会に自主財源を獲得させる制度を作る。地域ごとの得意分野を活かし、前向きな強みをみつけてもらう。

210●「自治会情報IT化」事業

- ・「互いに情報交換できる開いた自治会」をスローガンとし、地域の情報をもっと発信・受信しやすいようにIT化する。具体的にはSNS等を活用し、自治会が発信する情報を受け取りやすくする。

211●「市内の学生たちの勉強会」事業

- ・市内で学年ごとの勉強会を開き、偏差値向上を目指す。

212●「住民同士の交流の場を増やす」事業

- ・高校生が小中学生に勉強を教える。また、年一回の地域ごとに若者からお年寄りまで参加できる運動会を開く。

213●「小中学生の地域向上」事業

- ・小中学生が主体となって合志のための活動を行う。ボランティア活動等。年に何度か市と意見交換を行う。

214●「多言語パンフレット」事業

- ・今後外国の人々が増えるので、様々な言語の看板やパンフレットを作る。

215●「地域の安全確認」事業

- ・地域の人と子ども達と一緒に、交通安全を学んだり、地域内の危険箇所を確認したりする。市、学校、町内会がサポートする。

216●「塾に補助金」事業

- ・お金がなくても参加できる塾を作る。

217●「食を通して国際交流」事業

- ・「次、会ったときは、あいさつできる」をスローガンとし、地域の飲食店で食の交流会を実施し、地域にいる外国人を知り、地域交流会を行う。

218●「スポーツ活動」事業

- ・スポーツ活動により住民の結びつきを強める。

219●「世代を超える！クッキング教室」事業

- ・「食を通じて高齢者も子どももいきいき！」をスローガンとし、合志市に長年住む高齢者の方に地域の食を使った料理教室を開いてもらい、地域の子どもの参加できるようにする。子どもの地域への愛着を高め、親は安心し、高齢者は生きがいを与えられ、食の関心にもつながる。

220●「地域の祭りのフェス化」事業

- ・コロナで中止になっている地域のお祭りをフェス化する。子どもから大人まで楽しめるお祭りフェスを目指す。商工会の青年部がサポートする。

221●「夏祭りや季節行事の復活」事業

- ・行事を通じて地域を知り、地域の資源の防災、教育、福祉への活用を目指す。

222●「農家お手伝い」事業

- ・土日に農家のお手伝いをする市民を集める。後継者不足の農家に対し、市民が少しでも手伝い、農家の減少を防ぐことにつながる。また、退職後に農業をする人を増やす。

223●「ダイヤモンド人材バンク事業」事業

- ・「いつでも輝ける合志市☆」をスローガンとし、自分の得意なこと（趣味、特技、仕事）を紹介し、必要な人（地域）へつなげる事業を実施する。クリエイター塾生が紹介動画を作る。

224●「誰もが顔見知りの地域へ」事業

- ・子ども会、消防団等のコミュニティはあるが、積極的な参加が少ないと思われる。交流活動を行うことでお互いを知り、仲の良い地域づくりを行う。防犯にもつながる。

225●「地域活動活性化」事業

- ・地域活動を知り、取り組み、地域の交流等も増やす。

226●「地域住民による乗り合いタクシー」事業

- ・高齢者の免許返納率向上を目指し、働く親を支援する。定期便により自由な時間に利用可能にする。

227●「地域のコミュニティ形成」事業

- ・レクリエーションや交流会を通じて、老若男女が生き生きと住み続けられるまちを作る。

228●「地下鉄の運営」事業

- ・地下鉄を作れば道路が二車線化でき、渋滞が解消する。合志市がもっと便利になって地価が高騰する。

229●「中学生から投票できるようにする」事業

- ・中学生が投票できるようになれば、市の事をよく知れるようになる。

230●「中高生の企業インターンシップ受入れ」事業

- ・中高生の受入れを行い、各企業の仕事を体験してもらう。

231●「中高生・大学生による勉強会」事業

- ・お金を払って学ぶことのできない子へ、中高生や大学生のボランティアが勉強を教えられる場を設ける。オンラインでも実施する。交流につながり、引きこもりを防止する。

232●「月1回近所の人と集おう」事業

- ・消防ホースの場所、高齢者の居住地域、災害時の避難所等に関して情報共有を行う集いの機会を作る。

233●「転入者コミュニティ」事業

- ・知り合いが少なく不安な人のために子育て世代コミュニティを作る。合志市では転入者は増加傾向であり、中でも子育て世帯が多い。児童館での相談会や、遊べる場の運営や紙芝居等を行う。

234●「転入者によるコミュニティ」事業

- ・「ニューフェイスの視点で合志の新しいところを発見！」をコンセプトとし、チャットツールのアプリでコミュニティを作って転入者視点おすすめの場所等を発信する。市も参加して異なる視点からの意見を反映する。

235●「はたらく人応援団体の設立」事業

- ・様々な理由で職を離れている人に対し、地域住民の協力・助け合いの場を設ける。コミュニティに属することで、家族と社会の両立を図る。

236●「貧困層（非課税世帯）でも通える学習塾」事業

- ・合志市全体の学力を底上げするために、貧困層を対象とした学習塾を開催する。

237●「副業応援セミナー」事業

- ・子育て中の人、本魚を持つ人の生活を豊かにすることを目的とする。様々な会社にその事業の説明をして、仕事をできる人を増やす。

238●「プログラミングの勉強会」事業

- ・大人も子どもも考えられるプログラミングの勉強会を実施する。大会を開催する。

239●「ボランティア活動の再構築」事業

- ・見える化を行い、ゲーム感覚で気軽に参加できるようにする。清掃活動のポイント制（ネット通貨のようにする）にしたり、民生委員や町内会で集計管理する等して、たまったポイントで町内会で使用可能とする。その他、学校教育施設で出前講義を行ったり（農業等も）、高齢者もポイント制により活躍し、健康作りにつなげる。

240●「ボランティアによる宿泊施設づくり」事業

- ・自然豊かな合志市で、行政の力を借り、温泉宿泊施設、民泊などの施設づくりを推進する。農業体験等を利用する。

241●「まちづくり人材育成」事業

- ・転入者向けの自治会や地域行事等をアピールし、内容を知っていただき、参加してもらおう。全員参加で一体化したまちづくりを行う。市、商工会、自治会がサポートする。

242●「まちの人材活用」事業

- ・子ども会や敬老会が減少している。こうした中、まちの人々が楽しめるように、まちの人材を生かし、楽しめるフェス（子育て、運動、農業、文化）を開催する。

243●「まちの清掃」事業

- ・定期的に市民の希望者で掃除をする。

244●「祭り・スポーツ」事業

- ・市外からの移住者や、近所付き合いの増加を図る。

245●「マンガカフェでコミュニティづくり」事業

- ・「マンガは老若男女すべてをつなぐ」をコンセプトとし、日頃のほっとする時間に、気軽に誰でも訪れられる中で、「私のおすすめの一冊」等のイベントを開催する。気負わず、ゆるくコミュニティ作りができる。

246●「もうちょっとゆるい子ども会を作ろう」事業

- ・子ども会がほとんどなくなってしまっている。公園等に集まって、体操のお兄さんが来て一緒に遊ぶ。

247●「夜市会を定期的に キッチンカー大集合」事業

- ・夜市会としてキッチンカーを終結させる。インスタグラムで取り上げられることを目指す。バリアフリー化を図り障がい者やお年寄りの利用促進を図る。子どもや外国人も来やすいようにする。公共バスが利用できるようにし、遅くまでアルコールを飲めるようにする。定期開催化を目指す。

248●「若者の流出を防ぐ」事業

- ・大学生が地域から離れていくのを防ぐために新たなコミュニティを作る。高校・大学を作り、また、幅広い年齢の方との関わりを作る。

参加者の皆様、どうもありがとうございました。

第3次合志市総合計画策定スケジュール

(資料③)

年度	月	全体	庁議または各課	議会	総合政策審議会
R4	12月	将来像、まちづくりの方向性の検討 意見集約・課題整理・分析 基本構想・基本計画体系提示 施策体系・取組みの検討・成果指標の検討 修正 基本計画骨子案提示 修正 最終案 パブコメ 印刷製本(入札)・冊子印刷 冊子配布 施策マネジメントシート作成			
	1月		【1/16 庁議】人口推計の実施について、総合計画策定スケジュールについて全庁周知。		
	2月		基本構想(骨子案)・体系図(案)について報告、検討	【2/20全員協議会】 ・進捗状況について ・策定スケジュールについて ・行政評価システムについて	
	3月		【行政経営推進部会開催】 基本構想・体系図の検討 【政策推進本部会議】 基本構想・体系図の検討		【3月9日 審議会開催】 ・総合計画策定について ・ワークショップの意見とりまとめ 【3月17日 審議会開催】 ・ワークショップの意見とりまとめ
R5	4月	修正	【4/17・政策推進本部会議】 基本構想(骨子案・補正案)検討・修正 【4/17 庁議】 基本計画シートの記入依頼(各課5月上旬)シート記入	市議会議員(任期～R5.4.30)選挙(予定)	
	5月	基本計画骨子案提示	5月中旬 ●基本計画各課ヒアリング ●少子化対策・総合戦略に向けたグループワーク(予定)	市議会議員新体制スタート(R5.5.1～) ・新議長・委員長へ総合計画策定について事前協議 【5/22 全員協議会】 ・総合計画策定について再度説明	
	6月		施策・成果指標の検討		
	7月	修正	(7月19日・政策推進本部会議) ・基本計画(案)の施策・成果指標の決定 13:00～ ＜7/19・政策推進本部会議＞ 令和4年度振り返り・施策評価会議 9:00～12:00	＜7/28・令和4年度振り返り・施策評価会議＞ ※新たな基本計画について説明	【7月18日・審議会開催】 基本構想(案)、基本計画(骨子案・施策) 13:30～
	8月	最終案 パブコメ		【8/21全員協議会】 ●基本構想・基本計画(案)提示 ●パブコメ実施について説明	＜令和4年度振り返り・施策評価会議＞ 8/3(木) 8/10(木) 8/24(木)基本構想・基本計画素案を会議で配付(配付のみ)
	9月				【9月1日・審議会開催】 意見の集約 【9月12日・審議会開催】 基本計画素案に対する答申書作成
	10月		＜10/2・令和6年度経営方針検討会議＞ 13:30～17:00 (10/2 or 10/15 政策推進本部会議) ●基本構想・基本計画(原案)決定		
	11月			12月議会へ上程(議決) 議案提出期限:11/2頃	
	12月				
	1月				
	2月		(行政経営推進部会) 施策マネジメントシートの提示、行政評価について検討 (行政評価等改善検討プロジェクトチーム) 行政評価について検討		
	3月		(政策推進本部会議) 新・施策マネジメントシートの検討 行政評価について検討		